

「年頭の所感」

市長

皆さん、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
2023年、令和5年の「年頭の所感」をお伝え申し上げます。

昨年を振り返りますと、やはり3年目となる新型コロナへの対応ですが、昨年も市民の皆さま、事業者の皆さまには、引き続き、多くのご理解とご協力をいただきました。改めまして、心からの感謝を申し上げたいと思います。
現在はまだ第8波の最中にあり、決して予断を許すことはできませんが、アフターコロナの社会をしっかりと見据え、前に進んで行きたいと考えています。

さて、昨年来、横須賀市では、「再興プラン」第2ステージの様々な取り組みを進めており、次々と新しい流れが生まれています。
まずは横須賀市、初の試みとして、全国規模のBMXフリースタイルジャパンカップやストリートダンス大会を開催し、横須賀市内外からの大きな注目のもと、大きな興奮を呼び起こしました。BMXやダンスの大会は、今年も引き続き実施予定であり、横須賀がアーバンスポーツの聖地になる、そんな可能性を感じています。

このほか昨年は、カレーフェスティバルやウィンドサーフィンワールドカップ、開国花火大会など、人を呼び込む大規模なイベントを3年ぶりに再開し、街に賑わいと楽しさを取り戻しました。これらの大きなイベントを立て続けに再開できたことは、アフターコロナに向けた、本当に心強い第1歩になったと感じています。

また、浦賀の住友重機械工業跡地では、様々な事業者から意見を聞き、活用に向けた準備を進めており、今年はいよいよ利活用に向けて動き出し、未来を見据えた、画期的なものをつくり上げていきたいと考えています。
加えて、開設25年を迎えたYRPでは、新たに2つの企業が自社ビルを整備し、操業を開始したほか、新規のベンチャー企業や大学研究室はもとより、国際規格に基づいた、携帯電話基地局などの試験・認証を行う、日本初の拠点も開設されました。

そして一昨年に就航した「東京九州フェリー」においては、大手運送事業者による新たなモデルシフトが実現し、トラックドライバーの運転時間の削減とCO2排出量の削減という2つの大きな社会課題の解決に動き出したところです。

さらに今年、今月にいよいよ横浜F・マリノスの練習場がオープンします。1つの自治体の中に、プロ野球とプロサッカー、それぞれの練習場があるというのは非常に珍しく、それだけ多くの市民の方々にスポーツの醍醐味を身近に感じていただける環境をご用意できていると思っています。

また4月には、ソレイユの丘が季節を問わず丸ごと遊び、楽しみつくるエンターテインメントパークとして生まれ変わり、こちらも三浦半島を代表する観光スポットとして、更なる発展を遂げる予定です。

このように、今、横須賀ではこれまでにない様々な新しい流れが次々と生まれており、今年はいよいよその流れを、より大きな大河へと発展させていく年にしたいと思っています。

そこで私は今年の漢字としてこの「顕」の字を選びました。
顕在の「顕」であり、顕著の「顕」です。

これまで横須賀で生まれた多くの新しい流れが集まり、大きな川となり、皆さまの前に顕れ、目に見える形で感じていただけるようにしていきたいと思っています。

まさに今年は、3年にも及ぶコロナという風雪に耐えながら、大切に育ててきた苗がようやく実を結び、その果実を味わっていただく、そんな素晴らしい年にしたいと考えています。

ただ、常々申し上げていることではありますが、行政の最終目的は人を幸せにする、公的サービスの充実という意味ではなく、本当の意味での社会を幸福にする、人々を幸せにするという意味での福祉の充実であり、その目指すべき姿が、横須賀で暮らすすべての人々がお互いを認め合い、手を取り合って慈しみ合い助け合うことのできる、「だれも一人にさせないまち」の実現であります。

ぜひ、今年は、これまで説明をさせていただいた、数々の新しい流れが「だれも一人にさせないまち」への推進力として確実に昇華できるよう、引き続き、全身全霊で取り組んでいきたいという決意を「年頭の所感」としてお伝えしたいと思います。
今年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

続けて「うわまち病院跡地に予定する医療・看護系大学」についてです。

令和4年8月25日に発表した、うわまち病院跡地南館エリアにおける、医療・看護系大学の設置および運営については、今後、公益社団法人地域医療振興協会と協議を行っていくことになりましたのでお伝えをさせていただきます。

「公益社団法人地域医療振興協会」は、「うわまち病院」と「市民病院」の指定管理者として、市立2病院の運営を行っている法人であり、全国の83の病院、診療所、老人保健施設などの運営のほか、他市で看護専門学校も運営している法人です。

本日は、前回の発表の際にお伝えができなかった「法人名」について、お伝えができる段階になりましたのでご報告をさせていただいた次第です。以上です。

■ 質疑応答

記者

今年の漢字についてお伺いします。

「見えなくなったものが見えてくる」というお話しがありましたが、具体的に教えてください。

市長

横須賀の活性化が目に見える形で顕れてくると感じています。観光都市として発展させていきたいという思いがあったので、様々な人たちが横須賀を訪れることにより、街の価値を上げていくということが、顕在化していく年にしたいと思っています。

そういった意味で顕在化の「顕」を選びました。

記者

浦賀レンガドッグの利活用のイメージを教えてください。

市長

住友重機械工業の工場跡地のうち駅前エリアや東海岸エリアのサウンディングも含め、現在検討中です。

そのサウンディングの結果を受け、うまく連携しながらレンガドッグ周辺エリアをどのように活用していくか考えていきたいと思っています。

例えば、レンガドッグ周辺エリアは、浦賀の皆さまに喜んでいただけるよう、歴史・風土、それからレンガドッグを残し、浦賀の皆さま、あるいは横須賀の皆さまの拠点にしたいと思っています。

また、駅前エリア、東海岸エリアに関しては、他都市からいろいろな人たちに来ていただけるような地域にしたいと思っています。横須賀の伝統的な部分との連携をするような街づくりというイメージで考えているところです。

記者

観光や商業施設的なイメージでしょうか。

市長

いえ、少し違います。

ただ、今後、サウンディングを行い、その中でこれというものを見つけていきたいと思っています。

記者

新年度予算には、その辺のことは盛り込まれているのでしょうか。

経営企画部長

さまざまな調査費について盛り込んでいます。

浦賀だけではなく、ほかの地区も含めてサウンディングの予算は取ろうと考えています。

市長

広く多くの皆さまに意見・要望等をお伺いし、どのようなものがあるかということに、最大公約数を見つけ、私たちが考えているものと融合させていく形に、おそらくなると思います。

ただ、テーマが「第2の開国」ですので、開かれた横須賀をつくりたいと考えています。

記者

先程の「うわまち病院の跡地の利活用」についてお伺いします。
公益社団法人地域医療振興協会と協議していくということですが、具体的な医療・看護系の大学は、いくつか候補を絞っているのでしょうか。

市長

いえ、今回のご報告の趣旨として、地域医療振興協会と大学をつくるということが決まったということです。

記者

誘致ではなく、新たに大学をつくるということですか。

市長

はい。未だ形態等は決まっていますが、医療・看護系の大学をつくる予定です。

記者

国の許認可等も必要になるかと思いますが、いつ頃、国に申請するなどの時期は決まっているのでしょうか。

市長

いえ、まだ決まっていません。

■案件以外の質疑

記者

12月15日、PFAS問題で市が横須賀基地に初めて立ち入り、排水物の確認やサンプリング調査を行いました。これについて改めて感じたことや、PFAS問題について、今後の市の対応について教えてください。

市長

今後についてですが、当事者としては、海水に流れているものが基準値以下であるということが大切であり、このまま収束していくことを期待しています。

記者

市の周辺海域で実施している独自調査は続けていくのでしょうか。

市長

当然、継続していくと考えています。